

# 「クラスみんなで目指せ！体力ふなばしナンバーワン！」実施要項

令和7年6月2日改訂  
保健体育課

## 1 目的

- ・積極的に運動する児童とそうでない児童の二極化が進んでいる現状があることから、「遊・友スポーツチャレンジちば」に積極的に参加することにより、児童が生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践していく力を育むとともに、体力の向上を図る。

## 2 対象

- (1) 船橋市立小学校1学年～6学年のクラス内のグループとする。
- (2) クラスで取り組むことも可能だが、ランキングはグループ参加としてカウントする。

## 3 期間

- (1) 実施期間は、6月初旬から1月末日とする。
- (2) 長期休業中の登校日等での実施も可とする。

## 4 記録の公表及び表彰

- (1) 保健体育課が報告内容を集計し、毎月各小学校に結果を通知する。（2・3月を除く）
- (2) それぞれの種目の「グループの部」の部門別の上位6位までに賞状を授与する。  
(2月末予定)
- (3) 実施期間を通して、全体報告数の上位8位までの学校を表彰する。（2月末予定）

## 5 実施スケジュール

- (1) 各小学校に実施要項を配付する。
- (2) 各小学校で参加希望クラスを募り、実施した内容を所定の報告フォームにて県教育庁教育振興部体育課へ報告する。
- (3) 実施した学校は、（県へ報告した）実施内容を Excel データ「【〇〇小△月】体力ふなばし報告書」にまとめ、学校名と実施月を変更し、市教育委員会保健体育課宛にメールで提出する。
- (4) 保健体育課が毎月及び通年結果を集計し、各小学校に結果を通知するとともにホームページへ掲載する。
- (5) 取り組みについては、教育課程や児童の実態を考慮して実施する。
- (6) 2月末に各運動記録及び報告回数の上位を表彰する。

## 6 県・市への記録の報告方法及び報告先

- (1) 県教育庁教育振興部体育課への記録の報告方法及び報告先
  - ① 教員の立ち会いのもとに実施・確認されたものを公式記録として報告する。
  - ② 記録の更新にともなう報告回数は、表彰期間内において何度でも可とするが、1日で複数回記録が更新されても、報告は最高記録による1回のみとする。
  - ③ 記録の報告は、校長の同意の上、「各学年及び学校種別遊・友スポーツチャレンジちば報告フォーム」で県教育庁体育課学校体育班宛に報告する。
  - ④ 記録の報告は、実施後2週間以内に行う。2週間を超過したものは受け付けない。

## (2) 市教育委員会（保健体育課）への報告方法

- ① 実施した内容を月毎に Excel データ「【〇〇小△月】体力ふなばし報告書」にまとめ、報告期日までにメールで提出する。※学校名・実施月を記入
- ② 報告最終日は、1 月分の報告日である 1 月 3 0 日（金）とする。
- ③ 実施報告がない場合は、メール報告の必要は無い。
- ④ 市の参加期間を、6 月初旬から 1 月末日までとする。

## 7 実施上の留意事項

- (1) 各学校の実態に応じて職員の共通理解のもと、体育的な年間活動計画、体力向上計画等に位置付けて、組織的・計画的に行う。
- (2) 実施種目や方法・ルール、留意事項等を児童生徒に十分周知させる。
- (3) 実施にあたっては、準備運動を行うとともに、活動時の天候、活動場所等参加者の健康面、安全面に十分留意して行う。

## 8 「遊・友スポーツチャレンジちばの実施内容」 小学校・特別支援学級対象抜粋

### 1 「チャレンジスピード」

- (1) 対象：小学校～高等学校、小・中特別支援学級、  
特別支援学校（小学部～高等部）

#### 【コース図】

- (2) 部門：「**グループ**」

- (3) 方法

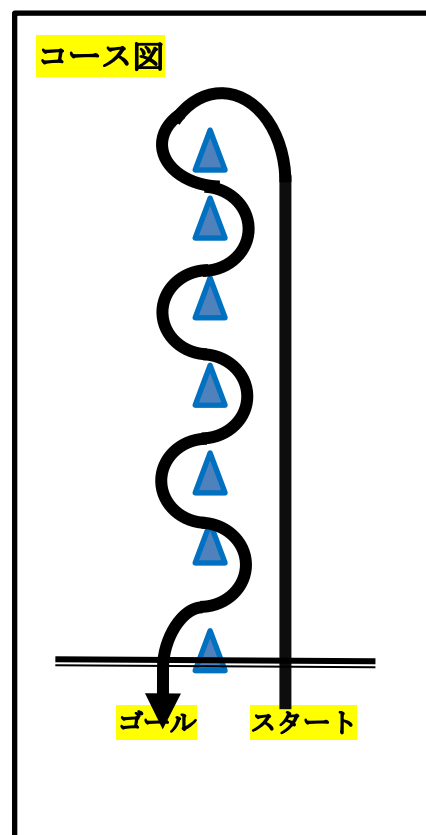
- 1 チームは 1 0 人以上で行います。
- 1 2 m のコースの 1 つめのコーンをスタート及びゴールとします。
- 2 m 間隔に置いた 7 つのコーンの前半はまっすぐ走り、コーンを回り、後半はジグザグに走り、バトンパスは行わず、現走者がゴールライン（最後のコーン）を越えたら次走者はスタートします。（右図参照）

- (4) ルール

- カラーコーンに触れてしまったとき、倒してしまったときは無効とし、もう一度最初から実施します。
- 次走者がフライングをした場合は記録を無効とし、もう一度最初から実施します。

- (5) 報告記録

- タイムは、アンカーがゴールラインを通過した時点で 100 分の 1 秒まで計測します。
- 全参加者の平均タイムを、記録とします。「〇秒〇〇」  
合計タイム ÷ 実施人数 = 平均タイム（1、000 分の 1 秒を切り上げ）



### 2 「長縄 8 の字連続跳び」

- (1) 対象：小学校～高等学校、特別支援学校小学部～高等部

- (2) 部門：「**グループ**」

- (3) 方法

- 1 チーム 1 0 人以上で行います。
- ※ 回し手は、人数に含まれない。
- 回し手は教員等の大人でも構わない。
- あらかじめ、跳ぶ順番を決めておきます。
- 縄を回す 2 人の外側を、8 の字に巡回しながら 1 人 1 回ずつ跳びます。

(4) ルール

- 制限時間は3分とします。
- 使用する縄の長さや種類は自由とします。
- 失敗しても続けて実施し、以降の跳躍数を加算してカウントします。

(5) 報告記録

- 制限時間内の跳躍の合計数を記録として申告します。「〇〇回」

3 「みんなで短縄跳び」

- (1) 対象：小・中学校特別支援学級、特別支援学校小学部  
※小学校は対象ではなくなりました。

(2) 部門：「グループ」

(3) 方法：

- 5人以上で行います。
- 1回旋1跳躍、前方回しで跳躍の合計数をカウントします。※かけ足とびは不可です。

(4) ルール

- 制限時間は1分とします。
- 使用する縄の長さや種類は自由とします。
- 2人組になり、お互いの回数を数えることを原則とします。
- 失敗しても続けて実施し、以降の跳躍数を加算してカウントします。

(5) 報告記録

- 全参加者の合計回数を実施人数で割った平均回数を記録とします。
- 記録は小数第2位を切り捨て、小数第1位までを申告します。「〇〇. 〇回」

4 「新聞棒投げ」

- (1) 対象：小学校～高等学校、小・中特別支援学級、特別支援学校（小学部～高等部）

(2) 部門：「グループ」

(3) 方法

- 1チーム5人以上で行います。
- 1人1回投げます。
- 新聞紙を布テープで巻いた棒をオーバースローで投げ、最初に地面に着いた地点を測定します。  
(メートル未満は切り捨てる。)

- 周囲の安全を十分に確認して実施してください。

(4) ルール

- 新聞紙の棒はテープを巻いた状態で150グラム以内とします。
- 棒を投げるときに線を踏んだり、越えたりした記録は無効とします。

(5) 報告記録

- 全参加者の合計を実施人数で割った平均を記録とします。
- 記録は小数第2位を切り捨て、小数第1位までを申告します。「〇〇. 〇m」

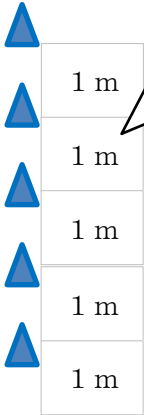
【資料：手作り用具（新聞棒）について】

- ・新聞紙1日分を広げない状態で短い辺を丸めていく。(棒の長さは約42cm)
- ・丸め終わったら全てを覆うように布テープで巻いていく。

参考：新聞紙一日分    7枚    約140g  
                                 8枚    約150g

投げる前に前後左右に人がいないか確認する。

以降1mずつ目印を置く



助走は2mまで→

## 5 「ボールパスラリー 5 m」

(1) 対象： **小学校低学年・中学年**、小・中特別支援学級、特別支援学校小学部～高等部

**※ 7 m以上がなくなり、高学年は対象ではなくなりました。**

(2) 部門：「グループ」

(3) 方法

○ 1 チーム 6 人以上で行います。

○ 5 mの間隔で向かい合います。

○ 1 つのボールを使ってキャッチボールを行い、投球後は同じ列の後ろに並びます。

○ 制限時間内でパスを捕球できた回数をカウントします。

(4) ルール

○ 制限時間は 3 分とします。

○ 小学校はドッジボール、中学校及び高等学校はハンドボール(ともに 2 号球)を使用します。

○ 片手で投げることを原則とします。両手でのチェストパスは認められません。

○ 落球した場合は、すぐに落球した本人がボールを拾って、カウントに加えて継続することができます。

○ 暴投の場合は、捕球予定の者がボールをとりにいき、カウントに加えて継続することができます。

○ 設定した間隔で投球が届かずバウンドした場合は、その距離を通過すれば捕球してカウントに加えて継続することができます。

○ 偶発的なバウンドは認められますが、意図的にバウンドさせることは認められません。

○ ラインを踏んで投げた投球はカウントされますが、踏み越して投げた場合はカウントされません。また、意図的にラインを踏んで投げるのも認められません。

(5) 報告記録

○ 制限時間内で捕球できた回数を記録とします。「○○回」

## 6 「サークルターゲットスロー」

(1) 対象：小・中特別支援学級、特別支援学校（小学部～高等部）

(2) 部門：「グループ」

(3) 方法：

○ 1 チーム 4 人以上で行います。

○ あらかじめ投げる順番を決めておきます。

○ 投球ラインからサークルをめがけてボールを投げます。

○ サークル内に入ったボールの数をカウントします。

(4) ルール

○ 1 チーム赤 6 球、青 6 球、計 12 球で 1 セット終了とし、2 セットの総得点で競います。（2 チーム対抗戦ではなく、1 チームの総得点で競います。）

○ 1 人が投球できる回数は 3 球までとします。

○ ボールはボッチャボール、サークルはフラフープまたはフラフープに代わるライン及びラインテープ（直径 85 cm 以下）を使用します。

○ フラフープはボールがぶつかった衝撃で動かないよう、固定しても構いません。

○ コートは縦 6 m 横 10 m とし、室内外は問いません。

○ 1 セット目のサークルは投球ラインから 3 m 離れた位置に設置し、2 セット目は 5 m 離れた位置に設置します。

○ 自力で投球できない場合は、補助具（傾斜台、雨どい等）を使用します。また、必要に応じてコーチ（教師）は投球者の腕やひじを持って介助してもよいこととします。

○ コーチは手拍子や声かけ等でサークルの位置を伝えることができます。

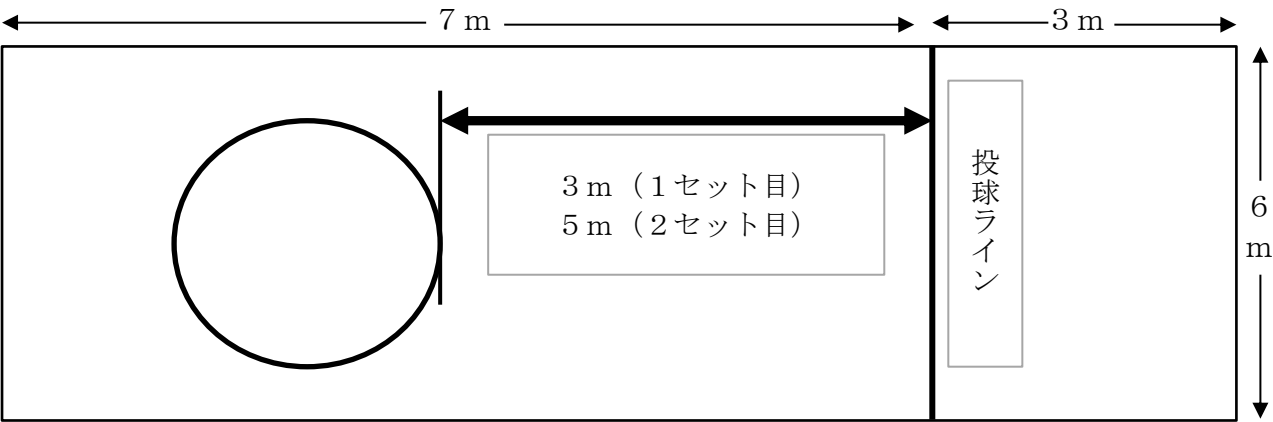
○ コート内のボールは、1 セット終了まで動かすことは認められません。

○ 投球されたボールが、他のボールに当たった場合そのまま有効とします。

○ サークル内にあったボールが弾き飛ばされて、外に出た場合そのまま有効とします。

○ ボールを落球しても投球ラインを超えなかった時や補助具にボールを入れる時に補助具に入らず

落ちてしまった場合はやり直しとします。



(5) 報告記録

- サークル内に入った総数（チーム全員）を記録とします。「○○個」
- ※実施種目については、千葉県教育委員会のホームページにて掲載しています。